

## ◆ 帯解(おびとけ)の家

米田 巧



写真1: 畳にかかる大きなダイニングテーブルを中心に置いたリビングダイニング

元々、改修の要望がなかったLDK部分が、改修を行う前よりも物理的に狭くなってしまいう内容となるため、部屋の構成で狭く感じないように工夫しました。改修前のダイニングはテーブル席、リビングは置き畳に座卓という目線の高さが異なる使い方を同一空間の中でされていました。

そこで、座卓とダイニングテーブルを一つにし、目線の高さを揃えることで、空間の一体化を図りました。さらにダイニングとリビングの位置を入れ替えることで、座卓からテレビまでの距離が離れ、リビングとして使用する範囲が部屋の端から端までとなり、今まで以上に広々とした空間とすることが出来ました。また、部屋の真ん中に長さが2.4mもあるテーブルを置いたことで、その天板の大きさが部屋をより広く感じる手助けにもなったと思います。



写真2: 畳の高さに合わせた椅子の座面

今回、特注で製作したテーブルは「栓(せん)」という木の無垢材を使用しました。この木目と同じ柄で建具や製作家具をつくり室内をトータルコーディネートし空間をまとめました。椅子は畳の高さを考慮した座面の低いもので、肘掛けも付いているのでリラックスしやすく、長時間座っていても疲れにくくなっています。「帯解の家」の工事は、比較的規模の小さいものでしたが、私にとって密度が濃く、改修工事の難しさ、住宅設計の面白さを改めて実感した現場となりました。



写真3: 移動が楽になった階段



写真4: 増築した玄関の軒裏



写真5: ダイニングからキッチン側を見る

昨秋、土で作られた塔がある事を知り、急ぎ奈良市高畑町へ向かった。日本人にとって、塔と云えば木造であり、そのイメージは法隆寺の五重塔や薬師寺の東塔であろう。学生時代、数々の塔を訪ねた私としては、その存在が信じられず、慌てて訪れた次第である。

実際に訪れてみると、崖の上に古墳らしきものがあり、北半分は整備され、南半分は以前のままだ。石積みで7段、階段ピラミッド形状で、東西南北の各面には、石仏が安置されている。

「石の迫力が凄い!まるでボロボドゥール!」

階段ピラミッドと各面に穿たれた石仏が、ジャワ島のボロボドゥール寺院を彷彿させる。「もしかしたら、ボロボドゥールに憧れていたヤツが、日本に作ったのでは?」



写真1:復元された頭塔

案内板によれば、高さ10m、最下段の一边は32mの正方形であると云う。奈文研の発掘により、内部からもう一つの頭塔が見つかったらしい。この変な名前の由来は、奈良時代の僧・玄昉(げんぼう)の首塚であるという伝承が古くから存在した。しかし、『東大寺要録』には、二月堂のお水取りを創始した実忠(じっちゅう)が、東大寺別当の良弁(ろうべん)の命令で、767年に竣工したと記され、そこでは「土塔」(どとう)と表記されている。つまり、「どとう」が転訛して「ずとう」と称されるようになり、玄昉首塚説との関連で、「頭塔」という漢字が当てられたものと考えられる。とある。

写真2:ボロボドゥール寺院  
(インドネシアの世界遺産)

しかし、私は思う。東大寺の力で建てるのであれば、もっと豪華で、権力的になると思える。頭塔形式はあまりにも、野暮ったい。そもそも、何故、元の頭塔の上から新しい頭塔を建てる必要があったのか?また、玄昉といえば聖武帝の信頼が篤く、吉備真備とともに橘諸兄政権の担い手として大出世した坊主であるが、藤原仲麻呂が勢力を持つようになると、745年に筑紫観世音寺に左遷、封物も没収され、翌年(746年)任地で没している。(暗殺説が疑われている。)元の頭塔は、玄昉の首塚であり、上の頭塔は、玄昉の存在を忘れたい玄昉の怨霊を恐れる権力者によって建てられたものである。と推察する。歴史は、いつも、勝者のものである。敗者の歴史は隅に追いやられ、歪曲され、鬼や神とされるのである。



写真3:上空から見た頭塔

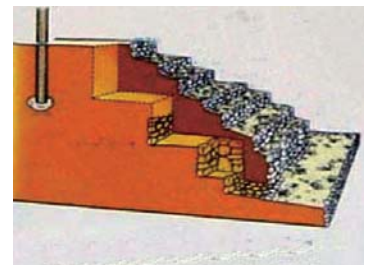


写真4:頭塔断面イメージ

## ◆ 編集後記

今回、ご紹介しました帯解の家は、木の素材感が印象的な住宅です。木の色合い、手触り、あるいは木が放つ香り、おそらくこれらは今後、何百年後も人間にとって心地よい感覚でありつづけるのだと思われまます。

一方、頭塔の記事は、飛鳥以来脈々と木の文化が続いてきたというイメージをくつがえす石と土の文化があったことを示す記事になっています。頭塔の謎が解き明かされることで、日本文化の新たな一面が再興されるかもしれません。(森本 晃尚)

## ◆ 編集メンバー

井戸田 精一	井戸田精一アトリエ
森本 晃尚	辻 建築設計室
辻 祐司	ささりな計画工房
何左 昌範	atelier nest- アトリエネスト-
橋爪 恒平	松村泰徳建築事務所
松村 泰徳	TAKUMI建築設計室
米田 巧	

## 編集・発行 [アーキテクトキャラバン]

大阪事務局/天満スタジオ  
大阪市北区天満4丁目11-8  
工技研ビル2F

TEL : 06-7501-4517

FAX : 06-7503-4773

URL <http://www.ym-arc.jp>

Copy right 2010-2014

奈良事務局/松村泰徳建築事務所  
奈良県葛城市北花内261-5  
松村ビル 2F-WE S T

TEL : 0745-69-5938

FAX : 0745-60-6524

E-mail: [contact@ym-arc.jp](mailto:contact@ym-arc.jp)

Architect Caravan All rights reserved

「アーキテクトキャラバン」は、建築に携わる有志が集まり、その活動内容や住まいに関する情報などを、広く皆様へお届けできる場として、年4回季刊誌形式にて発行しております。新築・リフォームに限らず住まい全般のご相談等御座いましたら、遠慮なく左記事務局までご連絡頂きます様宜しくお願い致します。